

スクールソーシャルワーカーだより **γ**移動中のクルマで
考えた事

ウクライナ

ヨーロッパ最古の農業地帯

ロシアが侵攻するウクライナの子どもたちは今、どのような思いでいるのでしょうか。

キエフ州チェルノブイリ。37年前、原発事故があった町です。ロシア軍に占拠されているようです。事故当時の子どもたちは、お父さんお母さんになっている事でしょう。

戦争や災害に見舞われた時、子どもが、一番強く不安を感じるのではないのでしょうか。何が起きているのか、分からないから。

前後しますが、たより80号に、子ども時代のつらい体験がイヤされぬまま放置すると、寿命まで短くなる事を書いています。

☆

戦争や災害がなくても世界中に、不安な夜を過ごす子どもがいます。目にしていない、耳にしていないだけで、わたしたちの周りにも、誰にも言えず、不安に耐えている子が居るかも知れません。

もし気づいたら、あなただけで何とかしようと思わず、きっと誰かに伝えてください。誰かが、子どもの涙をぬぐってあげられるはずです。戦争のさなかでも、大きな災害に見舞われている時であっても。わたしたちに出来ることがあるはずです。

★

わたしは「戦争を知らない子ども」です。あなたもそうです。父は、広島沖・江田島の基地から原子野に派遣され、救援活動をしたそうです。一緒に被爆した仲間は、終戦で散り散りになり、その後、連絡が付く人はいないと、小学生のわたしに語ってくれました。それでわたしは、被爆二世です。

原爆投下直後、誰も、放射能の怖さを知りま

せんでした。目に見えない何かが災いする事を、知らなかった。

この二年あまり続いている『コロナ禍』にも、目に見えない怖さがあります。

唐津に引っ越して来る数年前、水害を避け、避難した事があります。大雨の中、いつ逃げ出したら良いのか、得体の知れない怖さを体験しました。

直接の被害を受ける事もこわい。でも、どこで何が起きているのか、今、何をしたら良いのか分からない事ほど恐ろしい事はありません。

ウクライナの子どもは、今が、そうなのです。

☆☆

科学技術の進歩は、たとえば大雨警報のように、未来への不安を減らし、準備出来るようにしてくれました。

学校で学ぶこともこの、将来の不安を軽くする保険なのかも知れません。

「この勉強が何の役に立つのか」

役立つかどうか、その時が来なければ分かりません。中には「もう少し勉強していれば良かった」と思う人も居るけれど、時間は戻らないと考え、あきらめるのです。

昔から続くこのあきらめの繰り返しに、同じ後悔を子どもにさせたくない人たちが、学校を含めた、今の世の中のしくみを作り残してくれたのです。戦争をしない事も。

これからもずっと、戦争を知らない子どもたちが生まれてきて欲しい。

